



白く不思議な形の花

ークルマバハグマー

晩秋、林泉の池の奥にある自然観察の小道で、高さ50cmほどの植物が、^{ほら}先のような白い花を咲かせます。キク科コウヤボウキ属のクルマバハグマです。

クルマバハグマは、本州の近畿以北に分布し、山地の乾いた木陰に自生する多年草です。長く伸びる根茎を持ち、

茎は枝分かれせず直立します。茎の中ほどに輪生状の葉を8枚ほど付け、茎の先に白い小さな花を7〜10個ほど咲かせます。ガクの部分はこのように見え、白い花は、葉のよう

にも、動物の尻尾を編み込

んだ物の先が乱れたようにも見える、何とも不思議な形の花です。噛みそうになる名前は、葉が車輪のように輪生することと、細長い裂片からなる花の形状が仏具飾りの「白熊」に似ていることが由来とされています。

キク科の特徴である、くるくるとカールしたリボン状の花には清楚な美しさがあり、その見た目から「清らかな心」や「純粋な愛情」という花言葉が付けられています。

晩秋の静けさの中で小道にひっそりと咲く、清楚で不思議な形の花をご覧ください。

陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）

10月26日（日）、11月23日（日）

午前9時〜11時

※林泉の池堰堤集合

葉っぱのしおりづくり教室

（要申込：定員20名）

11月2日（日）午前9時〜11時

※ネイチャーセンター集合

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



1916年〜1918年ごろ

今回紹介する写真は、1916年〜1918年ごろ、当時まだ珍しかった自動車に乗って外国人バイヤーが妻木町を訪れた時の貴重な一枚です。

この写真は、輸出用の陶磁器を取り扱っていた中島玉吉の店先で撮影されました。写真には、バイヤーの両脇に抱えられた玉吉の子どもたちの姿と、近所の子どもたちの姿が写っています。この自動車が妻木町に初めて来た自動車だったという証言もあります。

さて、このバイヤーが妻木町を訪れた目的は、輸出用陶磁器の買い付けでした。

第18回 妻木に外国人バイヤーがやってきた

妻木町は、当時カップ&ソーサーなどの洋食器を多く生産し、名古屋・横浜・神戸の商社を通じて海外へ輸出していました。こうした製品を広く販売していたのが、1864年生まれの中島玉吉です。

玉吉は1888年に中島商店を創業し、地元の窯屋が製造した製品を海外へ積極的に売り出しました。

岐阜県美術館では、美濃陶磁歴史館のコレクション展を11月3日まで開催しています。展覧会では、玉吉が取り扱った輸出用のカップ&ソーサーも展示されています。ぜひご覧ください。



上絵付カップ&ソーサー
（明治〜大正時代）